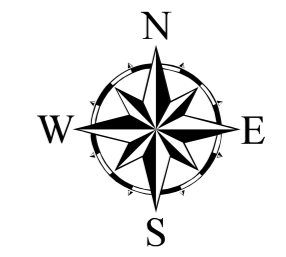


# 神戸 津波防災情報図(進入図)

計算条件：最高水面  
 隆起量：平均 -8cm(-9cm ~ -6cm)

・津波は、震源の位置、規模、細かな地形の影響などにより、試算した津波と異なることがあり、過去には、今回の津波の試算より大きな津波が来たことがある。



1:30,000

座標系: 北緯経度法  
 測地系: 世界測地系(WGS84)

### 凡例

— 水位上昇(+10cm)となる等時線[分]

○ 経時変化図出力点

### 最大水位上昇

150~最大180cm

100~150cm

50~100cm

### 進入時最大流 [knot]

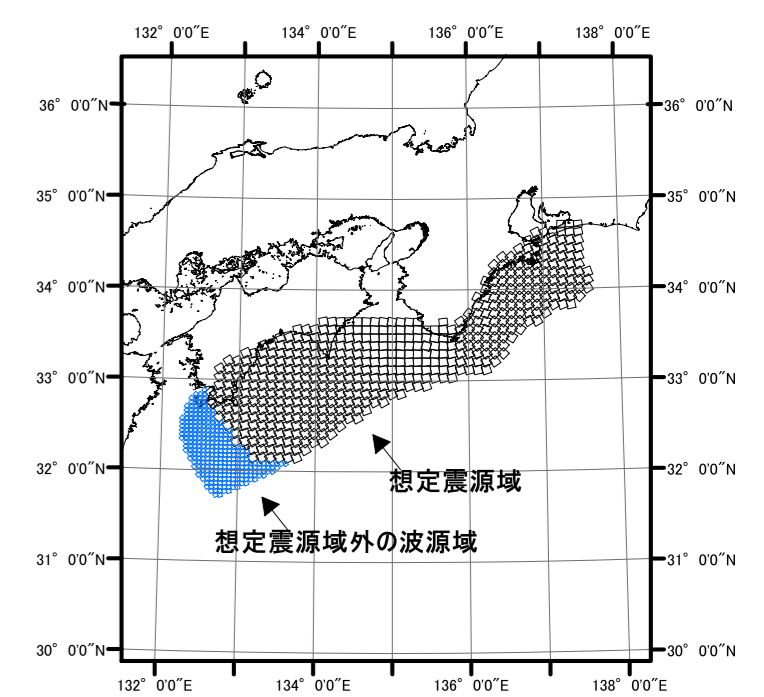
6 knot

4 knot

2 knot

- ・津波の到達時間は、水位が10cm変動した時点を算出している。
- ・海岸構造物は、地震・津波の影響を受けないものとして計算している。

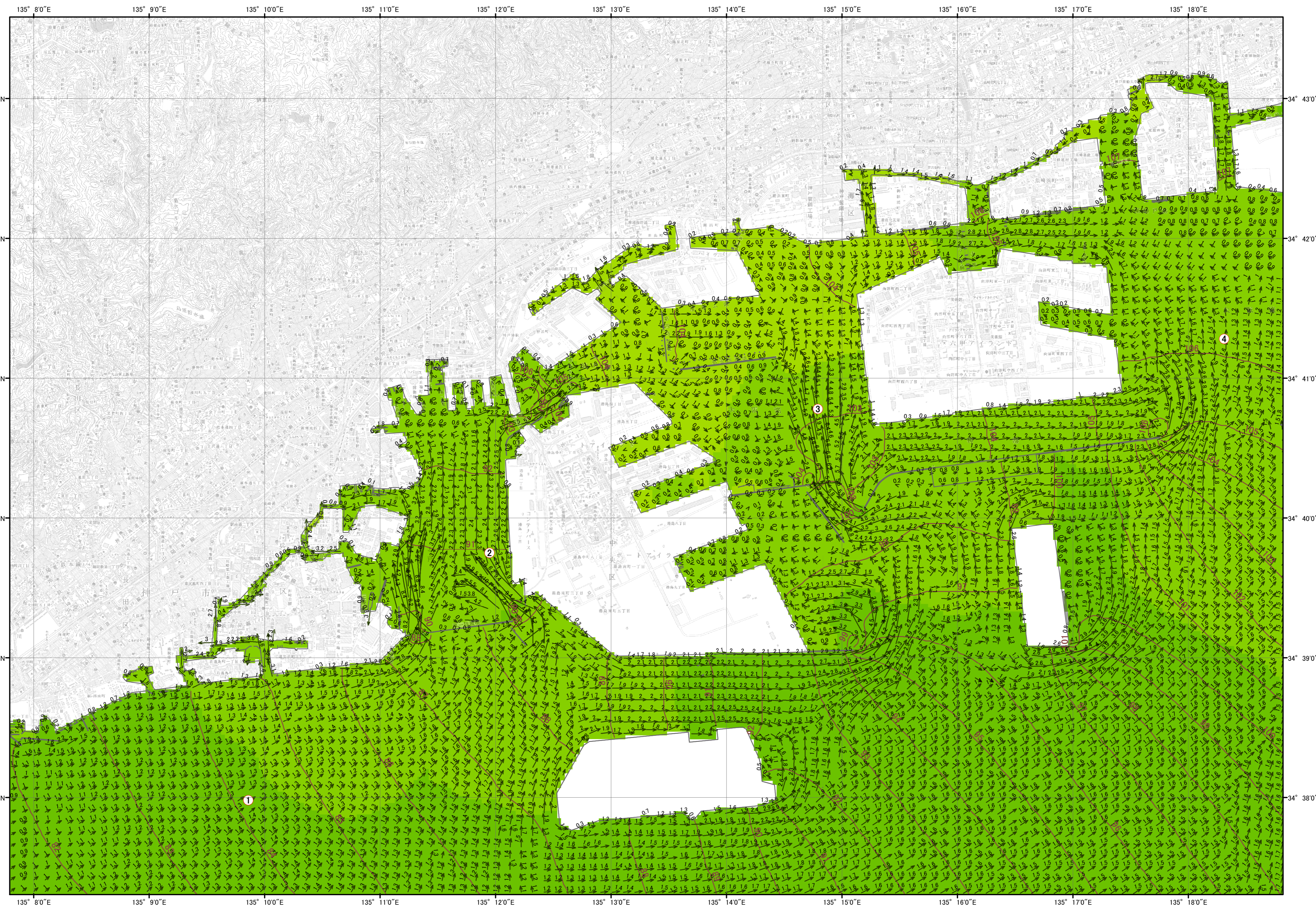
### 想定震源域と波源域の位置



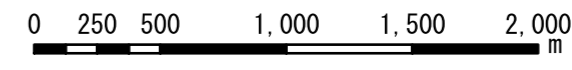
マクロ的に見たパラメータ	南海地震	東南海地震
断層面積 S (km <sup>2</sup> )	約 36,500	約 14,500
地震モーメント Mo (N-m)	8.34 X 10 <sup>21</sup>	2.15 X 10 <sup>21</sup>
平均すべり量 D (m)	5.70	3.63
モーメントマグニチュード Mw	8.55	8.15

・本図は、中央防災会議「東南海・南海地震等に関する専門調査会」で公表された断層モデル及び断層パラメータを使用した。

作成機関：海上保安庁  
 作成年月：平成16年 3月(初版)



- ・計算に使用したデータは、海上保安庁海洋情報部のJ-EGG500、J-BIRD、沿岸の海の基本図地形データ、及び海図を作成する際の基礎データを使用した。
- ・この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平15総使、第673号)
- ・この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図50mメッシュ(標高)を使用したものである。(承認番号 平15総使、第672号)
- ・この地図は、芦屋市長の承認を得て、同市発行の芦屋市基本図(縮尺1:2,500)を使用して調整したものである。(承認番号 芦建計第123号、平成16年2月10日)
- ・この図は、神戸市長の承認を得て、神戸市の地形図データを使用したものである。



経時変化図：図上の位置における津波の挙動を時系列で示す。

